

遊工房アートスペース 年間報告書 2017



遊工房アートスペースのアーティスト・イン・レジデンス事業は
平成29年度 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業として採用されました。

目次

- ・はじめに — 2017年、そしてこれからの展望
- ・遊工房アートスペースについて — ヴィジョン、ヴァリュー、ミッション
- ・寄稿 — 東京のアートレジデンシーに関するレポート サーラ・マリア・シクルーナ

1. 主要事業

- 1-1 AIRプログラム
- 1-2 展示プログラム
- 1-3 イベント - アーティストトーク、クリティック、セッションなど

2. 関連活動

- 2-1 AIR交流プログラム
- 2-2 Y-AIRの実践
- 2-3 ネットワーク活動
- 2-4 地域活動、コミュニティーアート
- 2-5 調査研究
- 2-6 アーカイブス

- ・出版物、掲載記事など

- ・2017年活動一覧 - Overview

* 本文中の記号について

文 文化庁文化芸術の海外発信拠点形成事業

M マイクロレジデンス関連事業

Y Y-AIR(若手アーティスト育成・教育プログラム) 関連事業

E ECOC(欧州文化首都) 関連事業

R YRRP, Youkobo Returnee Program Residency Program

2017年、そしてこれからの展望

米国大統領の交代、Brexit、そして気掛かりな近隣諸国の動きと極東の日本。自国第一の競争社会の歪み、効率化や大量消費で、じわじわ押し寄せる温暖化の進む地球丸の流れの中で、きらりと光る「核兵器禁止条約」の国連採決は、その後のノーベル平和賞にもつながった。アートと社会の原点を考える年であった。

今年も、素晴らしい作家達の滞在は、私たちの大きな喜びであり誇りである。

新たな出会い、再会、止まる事のない遊工房の流れを、滞り濁らないように大事にしたい。時の移り変わりに逆らうことなく自然体で、遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となり、アーティストを支え、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指していく。

1989年に始まったスタジオ遊工房、2019年の30周年に向け、今年から1組ずつ遊工房再来日の機会を設けることにした。

今年は、アイルランド作家のDavid FranklinとバルセロナのMarta Grasia（2008年から2010年にかけて滞在の、作家とキュレータのカップル）だ。その後の活躍の延長線上の今回の活躍は新年の楽しみである。



2016年の滞在作家 Almut Rink（オーストリア）から、2016年秋の遊工房・トロールの森・2016参加の後、同一作品を核に、Londonとウィーンの2都市を巡り無事完結した旨のうれしい報告があった。

・ February 28 to March 9, 2017 in London

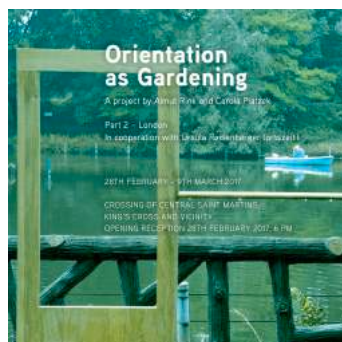
Orientation as Gardening Part 2, in cooperation with Ursula Reisenberger

In the Kings Cross vicinity at the crossing before Central St. Martins, University of the Arts London

・ September 7 to 21, 2017 in Vienna

Beyond Orientation, a project by Almut Rink co-curated by Anne Eggerbert

At Korea Kulturhaus, Donaupark and Irlisse, Vienna



遊工房アートスペースについて

アートは社会と一体の不可欠なものであり、人々の生活に潤いと気付きをもたらすものです。遊工房アートスペースは、独自のアート活動を通して、地域性と国際性、伝統文化と現代美術という一見異なる方向性を示す要素を繋ぎ、多様性が自然に受け入れられる場づくりや交流を実践しています。真摯に活動するアーティストの表現活動の支援と共に、地域社会の一員として、今後とも実践を通じたアート活動を継続していきます。

ヴィジョン

遊工房アートスペースは、多様な創作活動に応える実践の場となることでアーティストを支え、アートの社会的な役割とその重要性を提示することを目指しています。

バリュー(核となる価値観)

・開放性と交流:

アートは広く開かれるものであると同時に、異文化の人々のコミュニケーションと理解を育てるために必要なツールであると考えます。

・フレキシビリティ(柔軟性):

アートとアーティスト活動の本質に対して、私たちの活動はフレキシブルな取り組み方が不可欠であると認識します。

・自律性:

コミュニティや他の組織と強固なネットワークを保つことを大切にしながら、アーティストと遊工房自身の個性と多様性を維持します。

ミッション

真摯に活動を続けるアーティストの創作・発表の活動を支援します。(AIR プログラム、ギャラリー・プログラム) 国内外のアーティストの交流、さらに地域社会の人々との対話を通じた相互理解の醸成を図り、多様性が受け入れられる社会の形成を目指します。(アート・イベント、トーク)

他の AIR センターやアートスペースとのネットワークを築き、より多くの人々がアートを楽しめる環境づくりに努めます。(Res Artis、J-AIR Network、AIR-J など)

人々がアートに接する様々な機会を生み出し、アートが社会にとって不可欠であるという認識を広まるよう努めます。

東京のアートレジデンシーに関するレポート

サーラ・マリア・シクルーナ

(2017年遊工房レジデンスアーティスト)

東京の遊工房アートスペースでの私のアートレジデンスは、非常に実り多いものだった。素晴らしい都市を訪れたという事実は、私の仕事のために新しい材料を与えてくれた。私はまた同時に、そのような新しい影響がなければ可能ではなかった方法で自分の芸術を発展させた。

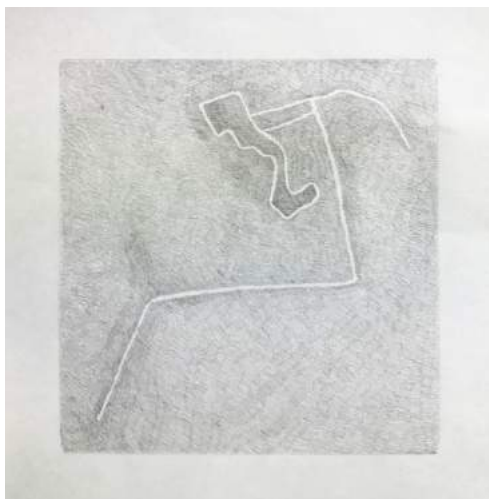
個人的には、私は、レジデンスはアーティストが異なる文化を体験し、個人としてさらに成長することを可能にするため、アーティストにとって非常に健康的であると信じている。

遊工房アートスペースはこれを行うのに理想的な場所だった。施設には、必要な設備が整ったリビングスペースと、つながったスタジオスペースがある。東京での生活を体験すると同時に、作品制作も可能にしてくれた仕組みであった。スタジオは非常に大きく、展示スペースに簡単に変形することができた。このスペースには、必要な家具と設備がすべて含まれていて、仕事するために非常に楽しい場所であることを裏付けるに足りる十分な光がある。

取り組んだプロジェクトは、東京での滞在に直接繋がった。東京の異なる街々の旅を通して、ドロ잉に置き換えた。これらのドロ잉は2つの別々のシリーズに分けられた。最初のシリーズは、私が歩いた旅の記録で構成した道に基づいてダイレクトにマッピングされた。電車を使うよりもバスを使う方が難しいと思ったので、このシリーズは、バスの乗り方を学ぶ前の初期の頃に駅へ歩く時に作ったものだった。2番目のシリーズは、携帯電話でアプリを使って録音し構成されたものだ。これにより、私が居た20分おきの特定のポイントを記録することができた。これを通して私は完全に旅した道程を地図にしたが、異なる位置が如何に近くにかたまっているかに応じて、特定の場所で過ごす時間の観念を提供する。さらに、マップ上に私の場所をイメージさせることを可能にするために、写真も撮っていた。これは主に2つの目的を果たした。1つは地図上にマーカーを置くことを可能にし、もう一方は、画報を持つことだ。

この作品は最終的にスタジオで展示され、写真の選択とともにすべての図面が展示された。今回の展示会には、日本のマルタ名誉領事館である白鳥玲氏と日本マルタ友好協会会長の山本克己氏が参加した。

芸術の仕事のかたわら、私はさらに体験するために東京を巡った。訪れた場所は、新宿、秋葉原、渋谷、原宿等々だ。また、鎌倉、浜谷、横浜も訪れた。様々な場所で、いくつかのローカルな祭りに参加し、地元の伝統的な体験もし、美術館と同様に横浜トリエンナーにも行った。



Sarah Maria Sciclunaさんは、遊工房が受入れた初めての国、地中海の孤島の偉大な島国、マルタ共和国から来日。欧州文化首都 Valletta 2018 の関係で、EU・Japan Fest 日本委員会から2016年に招聘で来日の現地の美術大学教授 Raphael Vella氏の来訪で話がはじまった。現地のAġenzija Żgħażaġh財団の若手作家の海外派遣支援プログラム、Empowerment Programmesの5人目の受賞者が本人で、東京での1か月間の滞在制作・発表の機会を得て遊工房に派遣されたもの。継続する交流のプログラムが双方で検討されている。

1 主要事業

1-1 AIRプログラム

2016.12.01 - 2017.01.31	フランク・レスブロス	文
2016.12.01 - 2017.01.31	ナオミ・リース	文
2017.03.01 - 2017.03.31	ニコラ・モス	
2017.03.01 - 2017.03.31	ロー・シャン・ユン	
2017.03.01 - 2017.03.31	サク・ヘイナネン	
2017.04.01 - 2017.04.30	エスペン・イデン	
2017.04.01 - 2017.04.29	マリア・マティンミッコ	
2017.05.01 - 2017.06.14	ジョンバティストゥ・ラガデキ	文 M Y
2017.05.01 - 2017.07.15	リチャード・マロイ	文
2017.05.02 - 2017.05.31	カタリナ・グリッペンベルク	
2017.06.01 - 2017.07.31	マデライン・ディッキー	
2017.06.15 - 2017.07.31	アビー・ジョーンズ	文 M Y
2017.08.01 - 2017.08.31	サーラ・マリア・シクルーナ	文 M E
2017.08.01 - 2017.09.30	ジュリー・マリー・デュロ	文
2017.08.16 - 2017.08.23	テューヤ・テイスカ	文 M Y
2017.09.01 - 2017.09.30	アンドレ・デュボア	
2017.10.01 - 2017.11.29	マイヤ・ルートネン	文
2017.10.01 - 2017.11.30	ヴォイチェヒ・ドムラーチル	文 M Y E
2017.10.01 - 2017.11.30	中村-Mather 美香	文
2017.12.01 - 2018.01.30	アリ・サールト	文 R
2017.12.01 - 2018.01.31	アナ・サムソエ、アンドレアス・ストゥービエ・ジョハンセン	文
2017.12.01 - 2018.01.31	デイヴィッド・フランクリン	文 R

<p>2016.12.01 - 2017.01.31 フランク・レスブロス[フランス生/ニューヨーク在]</p> <p>ニューヨークを拠点に活動するフランス人アーティスト。映像作品を中心に制作しているが、インスタレーションと彫刻の間の表現だと言及されることもある。彼の映像には、撮影のための操り人形として作動する独創的なモデルに、風景が入り込み、不穏な雰囲気動きを起す、唯一の主人公となる。滞在終盤では、海の世界をセットし撮影した作品に日本のミュージシャンTenniscoatsの楽曲を入れ、コラボレーションが実現。展覧会にて発表するとともに彼らとのライブパフォーマンスも実施した。</p>	
<p>2016.12.01 - 2017.01.31 ナオミ・リース [日本/アメリカ在]</p> <p>ニューヨークを拠点に活動するヴィジュアルアーティスト。彼女は建築と自然環境の交差点における限界的な空間を研究している。近年、絵画的な空間と抽象的な構成との均衡をとる立体的な絵画やインスタレーションに写真のイメージを再構成している。アーティストランのギャラリーTiger Strikes Asteroid NYの創設メンバーとして、またキュレーターとしてのプロジェクトや関連するプログラミングにも参画。滞在終盤では、これまでのシリーズ作品を様々な媒体を展覧会にて発表した。</p>	
<p>2017.03.01 - 2017.03.31 ニコラ・モス [オーストラリア]</p> <p>オーストラリアを拠点に活動しているヴィジュアル・アーティスト。彼女は、いかに我々が緑地の生態系と繋がり、形作るかを探求し、コミュニティと個人に好ましい環境の価値を調査する。滞在中は、東京の緑地を政策レベルと市民レベルの双方に焦点をあて、リサーチを実施した。滞在終盤では、リサーチの結果を展示するとともに、制作過程をオープンスタジオにて発表した。また、来場者に庭や緑地に関するアンケートを実施し、プロジェクトの情報を得ることができた。</p>	
<p>2017.03.01 - 2017.03.31 ロー・シャン・ユン [シンガポール]</p> <p>シンガポールに拠点を置くビジュアル・アーティスト。彼女は、人間と景色の関係に関連した問題に取り組む。特に庭造りの歴史に注目しており、異なる環境下での植物への認識と我々の自然に対するコントロールの欲求に疑問を呈している。ドローイングやペインティング、写真を撮るというリサーチ及び観察を通して、彼女の作品はしばしば人間と自然の間の「進化の関係」をとらえる。滞在終盤では、杉並区内の公園や緑地をリサーチして制作した写真作品をオープンスタジオにて発表した。</p>	
<p>2017.03.01 - 2017.03.31 サク・ヘイナネン [フィンランド]</p> <p>提携国際機関推薦プログラム (The Union of Finnish Writers) 招聘ライター。作家/イラストレーター。自身が執筆と挿絵を施した2つの児童文学「Zaida and the Snow Angel-ザイダと雪の天使」(2014年 Finlandia Junior賞候補)「Zaida and the Thunderbolts - ザイダと雷」(2015年 Arvid Lydecken賞候補)で賞賛を受けた。滞在中に2度のプレゼンテーションを実施し、自信の作品紹介や小説の朗読をした。</p>	
<p>2017.04.01 - 2017.04.30 エスベン・イデン [ノルウェー]</p> <p>ベルゲン、ノルウェー出身の学際的芸術家。写真、絵画、デジタル・カラーズ、製本などの媒体を用い、キュレーターと芸術の教師としてコンセプチュアル・アートを探求している。作品の主なテーマは、オカルト信仰、自然の営みの個人的な知覚、そして絵画と写真の交差点や纏わる要素。これまで12年以上写真を撮り続けてきたが、今回初めて絵画の領域にも挑戦し、制作発表を試みた。滞在開始の翌日と終盤の2度、1日限りの展覧会を開催した。</p>	

<p>2017.04.01 - 2017.04.29 マリア・マティンミッコ [フィンランド]</p>	
<p>提携国際機関推薦プログラム (The Union of Finnish Writers) 招聘ライター。ヘルシンキに拠点を置く作家。作品は、詩と散文の中間のジャンルにある。彼女自身の作品は、詩の伝統、散文詩、短編小説、さらに意外で非常に慎重に考慮された小説や格言の要素を結びつけるという意味で、比較文学の通常概念を超えた追求である。滞在の終盤に作品のプレゼンテーションを実施。</p>	
<p>2017.05.01 - 2017.06.14 ジョンバティストゥ・ラガデキ [イギリス]</p>	
<p>London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2017招聘アーティスト。ロンドン芸大セントラル・セント・マーチンズ校を卒業したフランス出身のペインター。デジタルの実践から、彼は絵画の時間を超越した歴史の範囲内のこの新しい文化的遺産の実験に基づいた現実化への奮闘の中で、明白な意味と共に、イメージのデジタル概念の特定のコードに反応して、ユーモアを持った感覚でスクリーンに代わるものを探し求めている。滞在の終盤では、6週間の活動成果をオープンスタジオにて発表した。</p>	
<p>2017.05.01 - 2017.07.15 リチャード・マロイ [ニュージーランド]</p>	
<p>提携国際機関推薦プログラム (New Zealand Foundation) 招聘アーティスト。オークランドを拠点に活動。彫刻や写真、映像、インスタレーションなど、幅広いメディアを用いて活動している。最近では「Yellow Structure」という大規模インスタレーションをArt Basel Hong Kongキュレーション部門にて発表した。滞在中には、オープンスタジオにて制作中の映像作品を発表し、終盤にはトークイベントを開催し、自身のこれまでの活動を紹介した。</p>	
<p>2017.05.02 - 2017.05.31 カタリナ・グリッペンベルク [フィンランド]</p>	
<p>提携国際機関推薦プログラム (The Union of Finnish Writers) 招聘ライター。ヤコブスタード生まれ。フィンランドでは、スウェーデン語を話す少数派であり、スウェーデン語で執筆する作家である。今まで4つの詩集を発表し、演劇の脚本も手がけた。詩やエッセイ、そして領域横断した著書を専門とする小さな出版社「Ellips」でも編集者として活動。現在は、コペンハーゲンを拠点に活動。滞在の終盤では、トークイベントを開催し、これまでの執筆作品の紹介、詩の朗読を行なった。</p>	
<p>2017.06.01 - 2017.07.31 マデライン・ディッキー [オーストラリア]</p>	
<p>提携国際機関推薦プログラム (Asialink) 招聘ライター。西オーストラリア州の最北端にあるウィングダムを拠点に活動。処女作「Troppo」は、フリーマントル市 T. A. G ハンガーフォード賞を獲得し、2016年にFremantle Pressによって出版された。著書は、多数の出版物に掲載されている。現在、2作目となる小説「Red Can Origami (仮題)」の草稿に取り組む。滞在の終盤では、トークイベントを開催し、これまでの執筆作品の紹介、リサーチ発表を行なった。</p>	
<p>2017.06.15 - 2017.07.31 アビー・ジョーンズ [イギリス]</p>	
<p>London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2017招聘アーティスト。アビー・ジョーンズはロンドンに本拠を置く芸術家であり考古学者である。領域を横断する制作・展示方法を組み合わせて、様々な素材でインスタレーションを制作しているを施行する。彼女の作品は、様々な媒体の集合によって観客の視覚的意識を素材の質へと惹きつけ、作品の間に起こりうる自発的な物語を誘発しようとしている。滞在の終盤では、6週間の活動成果をオープンスタジオにて発表した。</p>	

<p>2017.08.01 - 2017.08.31 サーラ・マリア・シクルーナ[マルタ共和国]</p> <p>提携国際機関推薦プログラム (Agenzija Zghazagh) 招聘アーティスト。1988年マルタで生まれ。彼女の作品は、儀式、システム、そして偶然を絶えず探求し、そのプロセスを大いに重視している。彼女の作品はインストールからシルクスクリーン、そして文書化へと変わるが、しばしばデジタルメディアを出発点として使う。滞在中、彼女は様々な方法で記録し街を探索し、終盤ではオープンスタジオにてマッピングドローイングを発表した。</p>	
<p>2017.08.01 - 2017.09.30 ジュリー・マリー・デュロ[ルクセンブルク]</p> <p>提携国際機関推薦プログラム (ルクセンブルク大使館) 招聘アーティスト。リエージュ(ベルギー)とルクセンブルクを拠点に活動。彼女の関心の軸は、親戚や家族に関連した物語など主観的なドキュメンタリーである。フィクションと景色との関係における家族の記憶をリエージュ大学美術博士過程にて研究しており、滞在中はその一環であるプロジェクト「Looking for my Japanese Family」(叔父を探しています)を展開し、終盤には集大成としての展覧会を開催した。</p>	
<p>2017.08.16 - 2017.08.23 チューヤ・テイスカ[フィンランド]</p> <p>Y-AIR Finland Japan AIR Exchange Program 2017招聘アーティスト。エスポー(フィンランド)を拠点に活動。2016年にヘルシンキ美術大学修士課程を卒業。彼女は作品の素材として、テキスタイルや見つけたもの、有機物、そして自身の身体を用いる。遊工房での滞在後、長野県東御市で開催される「天空の芸術祭2017」のレジデンスプログラムに参加。展示終了後、フィンランドセンター東京にて活動報告会を実施した。</p>	
<p>2017.09.01 - 2017.09.30 アンドレ・デュボア[カナダ]</p> <p>1963年ケベック(カナダ)生まれ。彼はインスピレーションを誘発する材料として日常的な素材を用いる。詩的で特に遊び心のあるアプローチを持って消費者社会を問いかけている彼の作品には、光が要素として繰り返し登場する。遊工房レジデンスでのプロジェクトの軸となるアイデアは、庭の本質を表現することである。滞在の終盤では、東京とモントリオールの両文化の融合を表現した紙の彫刻プロジェクト「Montkyo」を発表した。</p>	
<p>2017.09.01 - 2017.09.30 カイス・コイヴィスト[フィンランド]</p> <p>フィンランドのヴィジュアルアーティスト。インスタレーション、写真、サイトスペシフィック作品やドローイングなど、多岐にわたる表現活動をする。彼女の主題の焦点は、場所、歴史、美学や風景にあり、環境や動物がどのように描写され、変化され、ステレオタイプ化されるかにも関心がある。滞在中、カイスは写真、ビデオ、小さな彫刻、ドローイング、コラージュや執筆などを用いて、環境の政治的探求を続けた。滞在の終盤ではトークイベントを実施し、これまでの活動を紹介した。</p>	
<p>2017.10.01 - 2017.11.29 マイヤ・ルートネン[フィンランド]</p> <p>ヘルシンキ(フィンランド)を拠点に活動している、ビジュアルアーティスト。主に紙に描画し、しばしば、その手法の属性を調べて限界を広げ、同時に作品の二次元性と空間性、そして表現そのものの概念に臨んでいる。滞在中は、次に控えている出版物、展覧会のための研究制作を展開した。滞在の終盤では、2018年2月のヘルシンキの展覧会で発表する新しい作品の試作をオープンスタジオにて発表した。</p>	

<p>2017.10.01 - 2017.11.30 ヴォイチェヒ・ドムラーチル[チェコ]</p> <p>国際AIR間交流プログラム（OPEN A.i.R.）招聘アーティスト。プラハ（チェコ）を拠点に活動するディレクター、アニメーター、イラストレーター、グラフィックデザイナー。彼は映画を撮るのにストップモーションの技法を用いており、本物の道具、食べ物または他の物に命を吹き込む。滞在中は女子美術大学でのレクチャー・1週間のコマ撮りワークショップ講師を担当した他、終盤では俳句を5・7・5秒のアニメーション映像に変換した作品を制作発表した。また、チェコセンター東京での作品上映及び活動報告を行った。</p>	
<p>2017.10.01 - 2017.11.30 中村-Mather 美香[日本/オーストラリア]</p> <p>日本生まれ、クイーンズランド大学芸術学部（ブリスベン）を卒業。学部では最優秀生徒に選ばれ、最近博士課程を修了。彼女の作品は、個人と文化として、「家」が我々に意味するものを探求する。滞在の終盤では、これまでの継続した研究テーマを元にした新旧作品を遊工房のスタジオで展示する他、善福寺公園で開催された「トロールの森2017」にも出展。地域の方とコラボレーションで制作したインスタレーションを発表した。</p>	
<p>2017.12.01 - 2018.01.31 アリ・サールト[フィンランド]</p> <p>アリ・サールトは、ヘルシンキに拠点を置く写真家であり、講師である。1990年代半ば以降、殺人や処刑が行われた場所、都市空間での脅威、自殺、ホームレスやうつ病などのテーマを扱ったプロジェクトに取り組んできた。サールトは、肖像画、記憶、臨場感、空間、時、光と動きに興味を持っている。遊工房では、ピンホールカメラをいくつか作り、これらの要素を試した。ピンホールカメラで肖像画を撮り、スローモーションビデオも作成し、オープンスタジオにて発表した。</p>	
<p>2017.12.01 - 2018.01.31 アナ・サムソエ、アンドレアス・ストゥービエ・ジョハンセン[デンマーク]</p> <p>アナ・サムソエは、選択したメディアで音響現象を生成し調査して制作する、デンマークのアーティストである。今回、彼女はアンドレアス・ストゥービエ・ジョハンセンと共同制作に試みた。ジョハンセンは、デンマークのサウンドアーティストと音楽家であり、モジュラーシンセサイザーや自家製楽器を扱っている。主にパフォーマンスやサウンドインスタレーション、磁気自己演奏の楽器や彫刻を供し活動している。滞在中、2人のアーティストは、セラミックの構造と電気の構造を混合したインスタレーションを作成する。</p>	
<p>2017.12.01 - 2018.01.31 デイヴィッド・フランクリン[アイルランド/スペイン]</p> <p>Youkobo Returnee Residency Program 2017招聘アーティスト。デイヴィッド・フランクリンは、スペイン・バルセロナ在住のアイルランドのビジュアルアーティストである。主に絵画、ドローイング、ビデオを扱っている。滞在中、日本の景観が、どのように形づくられ、そしてそれは人間の活動、特に文化との関係にどのように影響するか、さまざまな側面を探求する長期プロジェクトの第1段階を開始する。このプロジェクトは、ビデオインスタレーションやドローイングなど、さまざまなメディアを通じて表される。</p>	

<p>2017.01.21 - 2017.01.29 フランク・レスプロス 変貌する海</p> <p>様々な動きや色、変化を伴う「海」という存在を主題にビデオ作品を制作した。ミニチュアのセットや舞台装置による暗闇と光を巧みに操り、自然災害と人類への影響を描写した景色は、現実とフィクションの間をさまよう不調和な感覚を引き起こす。また、国際的に活動している日本のバンドTenniscoatsの音源協力により、一層詩的な世界を創造し、展示会中にはライブパフォーマンスも実施した。</p>	
<p>2017.01.21 - 2017.01.29 直美・リース A Walk Around the Sun</p> <p>太陽の一周・1年間の日常の光景を観察し、視覚的な日記として映像、写真、ミクストメディアの絵画作品を発表した。愛する人を亡くした翌年から制作を始めたこれらの作品は、歩く・観察する・記録するという単純な行為によって、悲しみを癒す手段になった。同時に、ある人との永遠に会えないということを受け止めるために、戸惑いながら生きていくのだという不条理を思い起こす。</p>	
<p>2017.01.21 - 2017.01.29 郷治竜之介・山形一生 optical camouflage</p> <p>AIR Studio Program 2016での展示をきっかけに、2人展をオファーし実現。テクノロジーが繋ぎ目のない透明さとして環境と接続されつつある現在、人、物、事、またそれに関わるあらゆるイメージがシステムの内部でカムフラージュされるなか、この展示会はその透明に不/可視化されたイメージの迷彩そのものを主題として扱い、ある眺めのフィードバックを問う。</p>	
<p>2017.03.22 - 2017.03.26 リリアン・キャンライト / 田郷美沙子 / 坂田ゆかり 協力：峰岸優香 青白黒 Black and White and Blue</p> <p>Youkobo Y-AIR Studio Program。東京芸大新修士課程 グローバルアートプラクティス専攻選抜展として開催。人と言葉の関係を紡ぐ演出家の坂田ゆかり、絵画と空間を通してイメージの内と外を問いつける田郷美沙子、哲学のまなざしから映像を制作するリリアン・キャンライトと異なる制作ルーツを持った3人のアーティストが出展。キュレーションは同校アートプロデュース専攻峰岸優香による。</p>	
<p>2017.03.22 - 2017.03.26 ニコラ・モス OPEN STUDIO - 都市と自然</p> <p>東京の公園やグリーンスペース、近隣住民宅の庭を訪問し、都市における緑地のリサーチを行ない、切り絵の作品を制作発表した。また、来場者に自身と緑地との関係性を問うアンケートを用意し、多くの方にご協力いただいた。都市計画と遺産、そして個人的な美意識が自然保存計画と幸福感が混じり合い「キュレートされた生態」を作り上げるこのプロジェクトを通し、ローカルそしてグローバルに都市緑地問題について話し合った。</p>	

Photo: bozzo

<p>2017.03.22 - 2017.03.26 ロー・シャン・ユン OPEN STUDIO - サラダ</p> <p>杉並区にある公園を数多く巡り、リサーチで見つけてきた視覚的テクスチャーの写真や、それらからインスパイアされた抽象パターンのドローイングを組み合わせて展示。現代社会の中で失われつつあるからこそ、補うためににつくるということを類似点に、サラダと公園を重ねて見ている。5冊のシリーズ写真集の2冊目に向け、活動中。</p>	
<p>2017.04.02 エスペン・イデン 絵画を撮りました</p> <p>来日翌日に1日限りの展覧会を実施。本プロジェクトは2013年から継続しており、写真を通しての風景、そして静物や抽象の動機への探求＝「painterlesque」（写真における絵画的な要素）の探求である。本イベントは滞在制作中に進めるプロジェクト「Photographs I painted」へ導かれた。</p>	
<p>2017.04.23 エスペン・イデン 写真を描きました (そして撮ったことのない写真)</p> <p>滞在中は写真をペインティングにおこす作業をし、新しいものを探求している間に1つの媒体を理解するプロセスを得た。12年以上写真を撮り続けた後、絵画の領域に乗り出すと彼は構成に対する潜在的な関係性を感じる。本プロジェクトの中で、彼はカメラでは捉えることができなかった瞬間や記憶を捉えることを試みた。写真で撮ったものを絵画として描くことを意図し、彼が子供の頃から及ばないと思ってきた手技であり、初めての大きなチャレンジとなった。</p>	
<p>2017.06.07 - 2017.06.11 ジョンパティストゥ・ラガデキ オセロ</p> <p>デジタルの実践から、時代を超越した絵画の歴史の中で、新しい文化的遺産の実証的な現実を目指しており、その具体的な意味と、イメージのデジタル概念の一定の法則に呼応しながら、徐々にスクリーンに代わるものを探している。絵画（道具、支持、素材、傾向）の決まったパラメーターを確認、再定義して、現行の絵画と論理による新シリーズの制作のために幅広い材料を集めた。地元の職人等との交流を通じた見聞から、器材と作品のプロセスを生み出した。</p>	
<p style="text-align: right;">Photo: Ujin</p>	
<p>2017.06.07 - 2017.06.11 リチャード・マロイ わたしが見たもの</p> <p>遊工房の庭に長年置いてあった、ディレクター弘子の使わなくなった粘土を用い、手や身体、素材そのものが持つ物質的要素に焦点を当て、自身によるパフォーマンス的な映像作品を制作した。それぞれの行為は自身が遭遇した芸術作品の記憶に基づいている。それは、美大生が他のアーティストの作品を使って学ぶという、美術教育で使用される「artist model」の概念を考えさせるものとなる。帰国後本映像作品を美術館にて展覧予定。</p>	
<p style="text-align: right;">Photo: Ujin</p>	

<p>2017.09.20 - 2017.09.28 ジュリー・マリー・デュロ 叔父を探しています</p> <p>1970年代に日本に滞在していた祖父が日本人の女性ともうけた息子である叔父を探すプロジェクト。年齢も住所も名も定かでない彼をこの2年ほど探しており、叔父が訪れたかもしれない場所を求め、日本各地に足を運び、リサーチと撮影を試みた。展覧会は本プロジェクトのエピローグとして、これまでの思いや記録を詩や写真、映像、インスタレーション等のビジュアルで表現した。</p>	
<p>2017.09.20 - 2017.09.27 新井麻弓、磯村暖 London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2017成果報告展</p> <p>Y-AIR Exchange Programを通してロンドン(Acme Studios)と東京(遊工房)で各6週間の滞在制作活動を終えたばかりの新井麻弓と磯村暖による展示・報告会。両者ロンドンで制作及び発表した作品を発表すると共に、ゲストに松井みどり氏と黒瀬陽平氏を招き、公開講評会を実施し、今後の活動で改めて意識すべきことなどを認識する新たな出発点となった。</p>	
<p>2017.09.23 - 2017.09.28 アンドレ・デュボア Montkyo Gardens</p> <p>モントリオールの(Mont)と東京の(kyo)が合わさり「Montkyo」と名付けた本展は、様々な広告紙や日常的な物によって作られた彫刻等が展示された。作品は多面的に楽しむことができ、片面は日本、主に東京の文化が覆い、もう片方はカナダ、主にモントリオールの文化を表現している。本プロジェクトは、文化を超えて、作品制作の基本的感性や考えの共有を提示する。世界のどこにしようとも、自然の手入れや栽培することの重要性を比喩的に提示した。</p>	
<p>2017.11.17 - 22.26 中村 Mather 美香 Japanory</p> <p>彼女は、記憶のプロセスと我々の個人的な経歴の道しるべを構成する過去の断片を垣間見ることに特に興味がある。"Japanory"とは、"Japanese"と"story"の結合に由来する造語であり、本展は、自身が母国から離れている立場にあるなか、「家」の記憶や「家」とは何かという概念の研究展の続編である。久しぶりに長期滞在する故郷東京での活動では、アイデンティティと属性の礎である日常の瞬間や些細なディテールへの洞察をもたらした。</p>	
<p>2017.11.22 - 11.26 ヴォイチェヒ・ドムラーチル 行く秋</p> <p>滞在中は、日本各地を訪れ、風景や日用品、人々の生活など様々なものを被写体に膨大な枚数の写真を撮りためた。それらを用いて、五七五音の俳句の構造を、5・7・5秒のアニメーション映像に変換し、視覚的なアプローチ"Audiovisual Haiku"を発表した。同交換プログラムに参加した日本人作家渡辺望氏の紹介により、世界俳句協会との交流機会も生まれた。</p>	
<p>2017.11.22 - 11.26 マイヤ・ルートネン OPEN STUDIO</p> <p>重要な美術品を所蔵している場所や博物館を訪ね、日本の紙の使い方を調査し、次に控える出版物や2018年2月のヘルシンキの展覧会で発表するドローイングや立体作品等を制作した。彼女の作品の表面は自分自身の背景や現代への疑問から引き出される。立体作品はスキャニングし、持ち帰ったデータをもとに、帰国後デジタル3Dプリントにより再び形作られる予定。</p>	

2. 関連活動

AIR 事業の実践を通し、AIR がアーティストの活動の一つの要素となり、また同時に社会において大切な役割を持つ存在となることを目指す。主として海外からの滞在制作活動アーティストの機会と場を提供する AIR 活動をベースに、関連活動として、国内アーティストの海外での活動の機会と場の創設も大切なミッションと考えて、海外AIRとの交換プログラムの推進、さらにAIR運営の実際の体験や、滞在者をサポートするインターンシップを通じた人材育成など推進している(Y-AIR)。また、国内外のAIRプログラム間、AIR活動支援機関などとのネットワーク活動も積極的に展開している。地域でのアートを通じた活動として、都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」へ継続参画している。AIR実践をベースに、関連する諸活動として、マイクロレジデンスの一層の顕在化、AIRと美大の協働による諸活動と調査研究は、関係者との共有を意図して、その活動成果の報告会や、資料閲覧なども継続展開している。2017年からは、30年にわたるAIR活動の振り返りとして、遊工房AIRの評価を表す研究テーマ「Youkobo Returnee Residency Program, YRRP」がはじまった。

2-1 AIR交流プログラム

AIR間交換プログラム

遊工房では海外からの作家の受入と共に、作家、AIR機関との接触から生まれる交流として、国際AIRプログラム間のアーティスト相互交換プログラムを積極的に展開している。2017年としては次の2機関と実施。

・ OPEN A.i.R. (Pilsen市、チェコ)

欧州文化首都2015を機会に始まったチェコ Pilsen市のAIR、OPEN A.i.R.とのAIR交流プログラム3年目の実現。本プログラムは両国のAIRと美術大学の協働活動として発展してきた。(OPEN A.i.R. × 西ボヘミア大学 × 遊工房 × 女子美術大学) チェコからは、西ボヘミア大学アニメーションスタジオからヴォイチェヒ・ドムラーチルが、日本からは渡辺望がそれぞれ2ヶ月間の滞在制作・発表をした。ヴォイチェヒは滞在期間中に女子美術大学での講演と1週間のワークショップを実施した。

本交換プログラムの活動報告はチェコセンター東京にて開催：2017.11.20 18:00- 一般公開 50名参加

2017.05.01-06.30 渡辺望 (OPEN A.i.R.)

2017.10.01-11.30 ヴォイチェヒ・ドムラーチル (遊工房アートスペース)



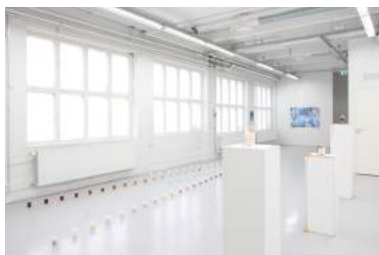
・ Tapiola Gues Studio(Espoo), Finland Artists' Studio Foundation (ヘルシンキ、フィンランド)

Finnish Artists' Studio Foundation(FASF)との新たに交換プログラム開始の覚書を交わし、2017年に始めた。FASFの運営するフィンランド国内のスタジオの中から、ヘルシンキ郊外のエスポー市にあるゲスト・スタジオとの交換プログラム。フィンランドからはヴィジュアルアーティストのマイヤ・ルートネン、日本からは写真家の吉田和生が各2ヶ月間の滞在制作・発表をした。

本交換プログラムの活動報告はフィンランドセンター東京にて開催：2017.10.25 18:00- 一般公開 30名参加

2017.05.01-06.30 吉田和生 (Tapiola Guest Studio)

2017.10.01-11.30 マイヤ・ルートネン (遊工房アートスペース)



2-2 Y-AIRの実践

Y-AIRの試行として、遊工房AIRと関係のある国内外の美大との連携で計画し、その実施・評価をまとめ、持続できる交換プログラムの仕組み作りにつなげ、活動の広がりを期待するものである。

・London/Tokyo Y-AIR Exchange Program 2017

ロンドン芸術大学CSM校と、現地のStudio創作スペース運営組織・Acme Studiosの間で 2013 年より始まった若手作家支援プログラム ASP(Associate Studio Program)と、東京藝大油画研究室と遊工房アートスペースによる同様のY-AIR Studio Program(次項)との、相互交換プログラムで、2015 年から始まったもの。2017年はその3年目の活動。5-7月の3ヶ月、日本側から新井麻弓と磯村暖が、UK側からは、ジョン・バティストゥ・ラガデキとアビー・ジョーンズが各6週間、両都市相互での滞在制作、調査・研究をした。

第1グループ(前半)：2017.05.01-06.14

ジョン・バティストゥ・ラガデキ(遊工房アートスペース) ⇄ 新井麻弓(ASPプログラム)

第2グループ(後半)：2017.06.15-07.31

アビー・ジョーンズ(遊工房アートスペース) ⇄ 磯村暖(ASPプログラム)

- ジョン・バティストゥ・ラガデキ：1992年フランス生、ロンドン芸大セントラル・セント・マーチンズ校を2016年に卒業。
- アビー・ジョーンズ：1992年イギリス生、セントラル・セント・マーチンズを2015年に卒業。
- 新井麻弓：1988年米国・ニューヨーク生、2016年東京藝大大学院美術研究科絵画専攻油画修了(ロンドン滞在制作2017/5-6)
- 磯村暖：1992年東京都生、2016年東京藝大美術学部絵画科油画専攻修了(ロンドン滞在制作2016/6-7)



・Youkobo Y-AIR Studio Program 2017

遊工房スタジオでの在京若手作家の活動支援プログラム。2017年の2年目は、前年実施の期間の見直しをした(6ヶ月から3か月に短縮)協力美大の東京藝大の参画を得て、美大卒業後間もない新人作家の活動の場となるもの。上記交換プログラムと重ねて実施するため、会期中、上記交換プログラムとしての6週間のロンドン滞在制作及び発表の機会と共に、前後して各6週間の独自スタジオ活動を展開する。期間中、ゲストを招いての展示発表や批評、同時期の遊工房AIRプログラム参画の海外滞在作家や研究者との交流・対話の機会が多々ある。また、9月に活動の総括として、展覧会と報告会を開催。

- 磯村暖：スタジオ活動 2017.05.01-06.14

- 新井麻弓：スタジオ活動 2017.06.15-07.31

合同スタジオ活動2016/9：成果発表展&報告会

評論家による批評の実施：会期中4回実施 | 6/10 堀内奈穂子、7/23 及び9/23 松井みどり、9/27 黒瀬陽平



・Y-AIR 海外派遣プログラム - 西ボヘミア大学ArtCamp (Pilsen市、チェコ)

遊工房アートスペースと、国内美術系大学教官（研究室）の協力を得て、チェコの地方都市Pilsen市にある西ボヘミア大学で毎年夏に開催されている、アートの国際サマースクール「ArtCamp」に美大生およびアーティストを派遣するプログラム。異文化での短期滞在型(3週間)創作交流機会は、アートとの研鑽と共に、国際交流に挑戦するもの。2017年は、Campへの受講者1名、Camp講師役アーティスト1名を派遣。EUジャパン・フェスト日本委員会の紹介と支援で2013年より開始。これまでに受講生累計21名、8校からの参加。（東京藝大、女子美、武蔵美、東京造形、福井大、東北芸校、埼玉大、秋田公立大）

本活動報告及び過去5年間のチェコでの活動を総括するシンポジウムをチェコセンター東京にて開催：2017.11.20 18:00- 一般公開 50名参加

2017.07.10-07.14 松下裕子：「illustration / Advanced illustration inspired by Japanese paper techniques」講師担当
滞在中に大学運営ギャラリーにて作家本人の作品展の機会にも恵まれた。

2017.07.10-07.28 袁媛（女子美術大学より受講生派遣）



・Y-AIR Artist Exchange Program, Finland and Japan, 2017

長野県東御市で2016年から始まった国際芸術祭「天空の芸術祭」のAIRプログラム開設の機会に、イベント主催・東御市及び協力機関の東京藝大からの要請をもとに計画がスタート。現地実行委員会、藝大研究室、また、類似の環境芸術祭の経験豊かなフィンランドとの縁をもとに、AIR交換プログラムの継続推進仲間ArtBreak・AIRプログラムマネージャとLapland大学（Rovaniemi市, Finland）の協力で始まった試行プログラム。2017年は、「天空の森」へのフィンランド作家招聘、フィンランドへは同芸術祭企画スタッフ・作家の現地調査・研究の機会として相互交換を実施した。

2017.08.01-08.31 升谷絵里香

Art Break (Iiti) とLapland大学芸術学部（Rovaniemi市）協力の基での現地調査と創作活動

2017.08.16-07.28 テューヤ・テイスカ

遊工房、天空の芸術祭2018（長野県東御市）、東京藝大協力の基での調査・研究と天空の芸術祭2018参加
天空の芸術祭2018・会期（9月30日～10月29日、東御市）
東京での調査研究（8月16日～23日、遊工房。10月7日～30日、東京藝大他）



・Y-AIR 講演

武蔵野美術大学 特別公開講座「国際交流文化概論B」

2017.06.01 ジョン・バティストゥ・ラガデキ

2017.06.29 リチャード・マロイ

女子美術大学

2017.06.27 アートプロデュース演習（3年生対象）アビー・ジョーンズ、辻真木子

2017.10.13 特別公開講座「国際交流文化概論B」ヴォイチェヒ・ドムラーチル

2017.10.16 - 21 アートプロデュース・遊工房 コラボレーション企画「アニメーション・ワークショップ」ヴォイチェヒ・ドムラーチル

東京藝術大学 油画学科学部二年 特別授業「Artist Talk」

2017.11.07 中村 Mather 美香



2-3 ネットワーク活動

国内外のAIRネットワーク組織への参画と共に、各AIRプログラム間や、AIR活動支援機関との繋がりなど、様々なネットワーク活動を積極的に展開し、AIRが、社会的な存在となることを目指している。

①AIRプログラム間のネットワーク

新規

- ・ Finnish Artists' Studio Foundation（ヘルシンキ）：Tapiola Studioとの交換プログラム開始

継続

- ・ Finnish Writers Union(ヘルシンキ)：年間3名の作家受入。(2016年-)
- ・ OPEN A.i.R. (Pilsen、チェコ)：各1名相互交換プログラム。(2014年-)
- ・ ArtCamp (Pilsen、チェコ)：受講生、講師派遣。(2013年-)
- ・ Acme Studios (London)：London藝大CSM校・ASPとの相互交換プログラム。(2015年-)
- ・ ArtBreak (li、フィンランド)：相互交換プログラム (2006-)

②AIR活動支援機関

継続

- ・ ルクセンブルグ文化省・在京ルクセンブルグ大使館：受入プログラム(2012年-)
- ・ Asialink (オーストラリア)：受入プログラム。(2006年-)
- ・ Asia New Zealand Foundation (ニュージーランド)：受入プログラム。(2015年-)

- ・ 文化庁国際課
- ・ EUジャパン・フェスト日本委員会
- ・ 国際交流基金

③美大他教育研究機関

新規

- ・ Lapland大学

継続

- ・ London藝大・CSM校：ASPとの交換プログラム(2015年-)
- ・ 西ボヘミア大学芸術学部（チェコ）：ArtCampとの交流（受講生・講師派遣、研究者交換）(2013年-)
- ・ 国内美術大学、大学芸術学部：Y-AIR研究会（2012年-）

④その他の機関

新規

- ・ 天空の芸術祭実行委員会（長野県東御市）：AIR活動支援（2016年-）

継続

- ・ すぎなみ戦略的アートプロジェクト（杉並区）
- ・ 「3331 Art Fair-Variou Collectors Prizes」 （アーツ千代田）

⑤AIRネットワーク組織

- ・ Res Artis（Amsterdam）：情報交換、交流、2000年より正会員。2007～2014理事、副代表
- ・ Microresidence Network：情報交換、交流、2012年発足。Network data base運営
- ・ Trans Artists（Amsterdam）：情報交換、交流
- ・ TransCultural Exchange（Boston）：情報交換、交流

- ・ AIR-J（国際交流基金）：情報交換、交流
- ・ Move Arts Japan（アーツ千代田）：情報交換、交流
- ・ J-AIR（東京）：情報交換、交流
- ・ AIR Network Japan（東京）：情報交換、交流

2-4 地域活動、コミュニティーアート

地域にある遊工房の活動を身近に知って頂くと共に、アーティストの社会的な存在を広く認知して頂くことも大事な視点と考えている。身近に現代アートに触れる機会として、地元都立善福寺公園での野外アート展「トロールの森」、地域の公立小学校で土曜教室「アートキッズ」など、2000年以降の地域活動は関係方面の理解と協力を得ながら連綿と続いている。同時に地域で活動する各種アート団体との連携も積極的に展開している。

トロールの森

2017年は「BORDER」をテーマに開催。「野外×アート」は、善福寺公園でのダイナミックなインスタレーションのほか、日・祝日を中心にしたワークショップ、多彩な身体表現を楽しむ野外劇場を展開。23組の作家たちが様々なプログラムで園内を賑わせた。「まちなか×アート」は、西荻窪から善福寺公園をアートでつなぐプログラムで、15団体が展示やパフォーマンスに参加した。

遊工房アートスペースからは、中村 Mather 美香（在オーストラリア）が公園と遊工房ギャラリー/Studio3の2サイトでインスタレーションを展開。

また、Studio1ではFinnish Artists' Studio Foundationとの交換プログラムに参加したマイヤ・ルートネン（フィンランド）がオープンスタジオ、Studio2ではヴォイチェヒ・ドムラーチル（チェコ）が展覧会を開催した。

【野外×アート】

中村 Mather 美香 2017.11.03 - 2017.11.23 「The Singing Ringing Tree」

善福寺公園は、地元の人達の家のような憩いの場のシンボリック的存在である。本作に吊るされた絵馬のメッセージは、地元の人達によって書かれたものである。近年、ボーダレス社会が進む中、人々と家との関連性、家の思い出や将来の夢が書かれており、絵馬のメッセージを通して近年の家の概念を垣間見ることが出来る。



【まちなか×アート】

中村 Mather 美香 2017.11.17 - 2017.11.26 「Japanory」

"Japanory"とは、"Japanese" と"story"の結合に由来する造語。作家が母国から離れている立場に因る「家」の記憶や「家」とは何かという概念の研究展の続編である。

マイヤ・ルートネン 2017.11.22 - 2017.11.26 「Open Studio」

重要な美術品を所蔵している場所や博物館を訪ね、日本の紙の使い方を研究しながら、2018年2月にヘルシンキの展覧会で発表する新作を制作。

ヴォイチェヒ・ドムラーチル 2017.11.22 - 2017.11.26 「Fleeting Autumn - 行く秋」

日本各地で撮った写真をコマ撮り映像として、五七五音の俳句の形式にならない5・7・5秒のアニメーション映像に変換し、「視覚的な俳句」に取り組んだ。



* 「トロールの森」のはじまり

「トロールの森」は、都立善福寺公園（杉並区）を舞台に遊工房を中心にアーティスト主導の野外展示活動とし2002年に始まった、今年で16周年を迎える国際野外アート展。2011年開催10周年を機会に遊工房から地元の実行委員会主催に発展、2013年からはJR西荻窪駅周辺へとエリアを拡大し、カフェでの展示をはじめ、自然食レストランやピリヤード場を使った舞踏やマイム公演、まちの歴史をたどって歩くイベント等を実施してきた。

アートキッズ

2002年公立小中学校の週5日制の導入に伴い、土曜日の公立学校スペースの活用の一環として、学校と地域の協力で始まった土曜日教室の一つとしての、子供の造形ワークショップ。2002年より遊工房として「アートキッズ」のタイトルで地域の公立学校で始めたもの。遊工房に隣接する杉並区立桃井第四小学校との活動が継続している。16年目を迎え、これまで多数のアーティストたちの指導により展開してきたこの活動は、参加した児童が創造的な可能性をより広げる機会を与えている。2017年は前年に引き続き、遊工房スタッフ英国出身アーティスト、ジェイミ・ハンフリーズが担当、2017年度からは、地元の造形教室「アトリエそら」（代表・早内恵子）に引継ぎ継続している。

3月〇日：「◎◎◎◎◎」



* 「アートキッズ」活動報告冊子発行。

継続開催の節目に「Art Kids-Activity Report」をバイリンガルで発行・公開した。これまでの手法なども掲載、ノウハウ集としても使える。<http://www.youkobo.co.jp/news/2017/08/art-kids-activity-report.html>

地域連携

地元で活動するアート系NPO、創作教室、ギャラリーなどとの連携も積極的に進めている。また、地域にあるリソースの活動としても地域連携は大事な側面である。

・NPO法人芸術資源開発機構(ARDA)

美術対話鑑賞ワークショップ「アートわか・すぎなみ」の実践の場として、遊工房での展示やオープン・スタジオを活用。

2017.11. 23 小学生の親子を対象とした対話型鑑賞のワークショップ実施。



・T-ROOMS – 西荻陶芸教室

陶芸作家と音響の作家ペア（アナ・サムソエ&アンドレアス・ストゥービエ・ジョハンセン）による創作活動に際しに、地元の陶芸教室の利用、相互の交流を進めることができた。（2017年12月-2018年1月）



2-5 調査研究

AIR活動実践を通じた調査・研究活動として、Face to Faceの対話をベースに相互訪問、寺子屋的な会合の展開、そしてフォーラムやシンポジウムでの公開の場に展開。報告等通じた情報共有を進めている。

2017年からは、YRRP, Youkobo Returnee Residency Programとして、これまでに遊工房に滞在した作家・研究者の内、二度目、またはさらなる回数の滞在者の実態調査を始めた。この調査は、1989年来のAIR活動の振り返りとして、遊工房AIRの評価を表す研究テーマとして進めていく。

調査訪問

2017.2.20-3.7 London/Tokyo Y-AIR Exchange Programフォローアップミーティング

UAL・CSM校 (London) Jaime Humphreys, Prof. Graham Ellard

2017.9.4-9.7 Luxembourg AIR 事情調査、ルクセンブルク文化省 (ルクセンブルグ)、村田達彦, Tessa Fritz

2017.9.29-30 天空の芸術祭2017・セレモニー&SKY AIR開設披露 (長野県東御市)、村田達彦, Kaisa Keratar

2017.12.27 藤野エリアマネジメント協議会・多様なAIRとアーティストコミュニティ (神奈川県相模原市) 村田達彦, Marta Grasia

フォーラム・シンポジウム等

2017.02.10-11 「Microresidence AIRネットワーク研究会」 @女子美術大学 (10/11) 遊工房 (10/12)

2017.10.25 フォーラム「フィンランド・日本 アーティスト・イン・レジデンスプログラム FIN/JPN LABシリーズ PARTIIIーアート、レジデンスプログラム、異文化交流関係者によるつどい」@フィンランドセンター (東京)

2017.11.20 アートフォーラム「世界をつなぐアーティスト・イン・レジデンスの魅力〜チェコと日本との交流から」@チェコセンター東京

2017.12.08 AIR評価委員会「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)活動報告会(第1回)」@文化庁

寺子屋・ほんとうのはなし (ミニ・フォーラム)

2017.04.19 堀真理子 「AIRs Vol.14 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」 (skype from Serbia)

2017.04.27 菅野麻依子、駒井弘恵 「AIRs Vol.15 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」 @遊工房

2017.06.18 吉田和生 「AIRs Vol.16 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」 (skype from Finland)

2017.06.20 渡辺望 「AIRs Vol.17 アーティスト・イン・レジデンスほんとうのはなし」 (skype from Czech Republic)

2017.12.20 マータ・グラシア 「非公開_Art motileのこれまで、Microresidence Networkのこれから」 @遊工房

2017.12.22 マータ・グラシア 「非公開_世界のネットワーク事情、Microresidenceのキーとは」 @遊工房



2-6 アーカイブス

AIR実践をベースに関連する諸活動、マイクロレジデンスの一層の顕在化、AIRと美大の協働による無限の可能性の調査研究は、共有すべく活動報告として発表、また、調査したAIR情報は、遊工房滞在作家の活動記録と共に、アーカイブとしての整理を心掛けている。国内外のAIRプログラムデータ、滞在アーティスト外の活動記録、調査研究の成果のアーカイブは順次閲覧できるようにしており、AIRへの参加の助言、AIR設立やネットワーキングの相談なども適時受付けている。

AIRプログラムの調査・研究を通じ、AIRそして「マイクロレジデンス」の顕在化する活動も進めている。アーティストと共に、社会でその活動の意義が広く浸透することを願っている。

・出版物、掲載記事など

1. 出版物

カタログ

-London/Tokyo Y-AIR Exchange Program2017

-Art Kids Activity Report

-アーティスト・イン・レジデンスと大学の国際化 - チェコと日本の交流5年と展望

冊子

-フィンランドの作家たち (その1) Finnish Writers in Youkobo 2016

-フィンランドの作家たち (その2) Finnish Writers in Youkobo 2017

-Finland Artists' Studio Foundation アーティスト・レジデンシー交換プログラム 2017

-Y-AIR フィンランドとの試み - AIRと美大の協働

2. AIR展覧会カタログ、案内状など

会期	イベントタイトル・アーティスト	内容
2017.01.21 - 2017.01.29	optical camouflage 郷治竜之介・山形一生	DM
2017.01.21 - 2017.01.29	A Walk Around the Sun 直美・リース	DM、カタログ
2017.01.21 - 2017.01.29	Sea of Instability フランク・レスプロス	DM、カタログ
2017.03.22 - 2017.03.26	OPEN STUDIO - 都市と自然 ニコラ・モス	DM
2017.03.22 - 2017.03.26	青白黒 Black and White and Blue リリアン・キャンライト・田郷美沙子 / 坂田ゆかり 協力: 峰岸優香	DM、カタログ
2017.03.22 - 2017.03.26	OPEN STUDIO - サラダ ロー・シャン・ユン	DM
2017.03.26	Talk Event by Saku Heinänen サク・ヘイナネン	DM
2017.06.07 - 2017.06.11	オセロ - Othello ジョンパティストゥ・ラガデキ	DM
2017.06.07 - 2017.06.11	わたしが見たもの - Things I Have Seen リチャード・マロイ	DM、カタログ
2017.07.19 - 2017.07.23	金峰町 /KIMPOCHO 赤池龍星	DM
2017.07.19 - 2017.07.23	Abstract Grid アビー・ジョーンズ	DM
2017.08.05 2017.08.11 2017.08.12	《音遊庭》-Stuttgart-とともに 新井陽子、森重靖宗、おちょこ、風巻隆	DM
2017.08.23 - 2017.08.27	ずっと私についてきて サーラ・マリア・シクルーナ	DM
2017.08.23 - 2017.08.27	London TokyoY-AIRProgram 2017成果報告展_新井麻弓 / 磯村暖 新井麻弓 / 磯村暖	DM
2017.09.20 - 2017.09.28	叔父を探しています ジュリー・マリー・デュロ	DM、カタログ
2017.11.22 - 2017.11.26	OPEN STUDIO マイヤ・ルートネン	DM、カタログ
2017.11.22 - 2017.11.26	Fleeting Autumn- 行く秋 ヴォイチェヒ・ドムラーチル	DM、カタログ
2017.11.22 - 2017.11.26	Japanory 中村 Mather 美香	DM、カタログ

3. 掲載記事等

美術手帖 ART NAVI、月刊ギャラリー、Tokyo Art Beat、各国大使館・文化センター・交流機関 HP にて 滞在及び展示情報掲載

新聞

- ・「フィンランド新聞」6月19日掲載（フィンランドでのY-AIRプログラム）
- ・「ルクセンブルク新聞」9月10日掲載（ルクセンブルク大使館との共同招聘作家たちと遊工房の活動紹介）
- ・「東京新聞」10月31日掲載（トロールの森）
- ・「高円寺経済新聞」11月2日掲載（トロールの森）

情報誌

- ・『中央線が好きだ。』vol.15 (JR東日本) 9月19日発行（トロールの森）
- ・月刊『散歩の達人』11月号「祭り&イベントカレンダー」10月21日発行（トロールの森）
- ・『SUGINAMI ART SANPO イベントガイドVOL.02』杉並区文化・交流課（トロールの森）

ウェブサイト

- ・HAPPENING (英) 7月31日掲載（Jean-Baptiste Lagadec インタビュー）
- ・リビングむさしのweb 11月16日掲載（トロールの森）
- ・ロコナビ関東版（株式会社トクバイ）（トロールの森）
- ・ウォーカープラス（株式会社KADOKAWA）（トロールの森）
- ・Goo地図（エヌ・ティ・ティ・レゾナント株式会社）（トロールの森）
- ・リビングむさしのweb 街盛り上げ隊が行く（サンケイリビング新聞）（トロールの森）
- ・武蔵野大学HP（トロールの森）
- ・かるふあん！（企業メソナ協議会）（トロールの森）

ラジオ

- ・「ラジオばちばち-Radio88」4月23日（開局16周年記念ゲスト 滞在家作家 Espen、Mariaインタビュー）

テレビ

- ・NHK総合テレビ「首都圏ネットワーク - いてみよういてみたい」11月10日18:10-19:00放送（トロールの森）

KULTUR 19

Flogging Molly wird im Atelier auf Händen getragen
Auch nach 20 Jahren Bandgeschichte bleibt die Irish-American-Punk-Band Flogging Molly in der Hauptstadt der Kunst, wie es in der letzten Ausgabe des Kulturmagazins zu sehen war. Seite 20

Sahj tamals selbstbewusstes Debit „Briefe an die grüne Fee“
Wie das eigene Werk mit der Qualität von Goethes „Werther“ verglichen, muss sich vorerst festlegen können. Seite 21

Kreativität braucht Freiraum
Der „Yukobu Art Space“ in Tokio begrüßt seit 2011 jährlich einen Luxemburger in seinem Künstlerresidenzprogramm. Von YVES KRAEMER

„Die gläubigen Süßer“
Zurück geht die Ganze auf eine Initiative des frühen Buchhändlers der Goethezeit, Paul Scheffer. Er verband die Kunst der Literatur mit dem Leben der Menschen. Einmal mehr ist es ein Luxemburger, der die Initiative ergreift. Von YVES KRAEMER








...schlechter als die Menschen im Land tatsächlich waren. Die Kunstwerke, die sie über diese Erfahrungen schrieben, sind heute noch in den Museen zu sehen. Sie sind ein Zeugnis für die menschliche Fähigkeit, auch in den dunkelsten Zeiten Licht zu finden. Die Kunstwerke sind heute noch in den Museen zu sehen. Sie sind ein Zeugnis für die menschliche Fähigkeit, auch in den dunkelsten Zeiten Licht zu finden.

...schlechter als die Menschen im Land tatsächlich waren. Die Kunstwerke, die sie über diese Erfahrungen schrieben, sind heute noch in den Museen zu sehen. Sie sind ein Zeugnis für die menschliche Fähigkeit, auch in den dunkelsten Zeiten Licht zu finden. Die Kunstwerke sind heute noch in den Museen zu sehen. Sie sind ein Zeugnis für die menschliche Fähigkeit, auch in den dunkelsten Zeiten Licht zu finden.

...schlechter als die Menschen im Land tatsächlich waren. Die Kunstwerke, die sie über diese Erfahrungen schrieben, sind heute noch in den Museen zu sehen. Sie sind ein Zeugnis für die menschliche Fähigkeit, auch in den dunkelsten Zeiten Licht zu finden. Die Kunstwerke sind heute noch in den Museen zu sehen. Sie sind ein Zeugnis für die menschliche Fähigkeit, auch in den dunkelsten Zeiten Licht zu finden.



Taidealan yhteistyö Pohjois-Suomen ja Japanin välillä

...die Kunstwerke sind heute noch in den Museen zu sehen. Sie sind ein Zeugnis für die menschliche Fähigkeit, auch in den dunkelsten Zeiten Licht zu finden. Die Kunstwerke sind heute noch in den Museen zu sehen. Sie sind ein Zeugnis für die menschliche Fähigkeit, auch in den dunkelsten Zeiten Licht zu finden.

Microresidence AIRネットワーク研究会 国内編

国内各地でマイクロレジデンスを運営する代表者等による近況活動報告と共に、課題共有、求められるネットワークのあり方について議論した。1日目は女子美術大学にて各団体のプレゼンテーション、及び来場者を交えたオープンディスカッションを実施。2日目は遊工房アートスペースにて、マイクロレジデンス運営者の非公開寺子屋を実施し、情報交換及び課題認識、マイクロレジデンスネットワークの展開について等のディスカッションがなされた。ゲストに西荻窪でairbnbを経営する岩間航氏（+床）を招き、マイクロレジデンスとAirbnbの共通点・相違点を認識し、互いの運営の在り方や国内外の滞在創作の動きを学んだ。

【日程】

2月10日 シンポジウム、2月11日 寺子屋

【参加団体】

陸前高田AIRプログラム（岩手・陸前高田市）
アーティストイン・レジデンス山梨（山梨・甲府市）
遊工房アートスペース（東京・杉並区）
Co-ume lab.（東京・杉並区）
Art Space 寄す処（京都・京都市）
Studio Kura（福岡・糸島市）

【主催】

女子美術大学アート・デザイン表現学科 アートプロデュース表現領域研究室、遊工房アートスペース

【協力】

AIRネットワークジャパン

2/10 @女子美術大学杉並キャンパス

- ・マイクロレジデンス・ネットワークの現状：村田達彦
- ・参加AIR近況活動報告
 - 松山隼（陸前高田AIR）
 - 坂本泉（AIRY）
 - 辻真木子（遊工房）
 - 庄野萌、遠藤初穂（co-ume lab）
 - 沼沢忠吉（寄す処）
 - 松崎宏史（Studio Kura）
- ・ネットワーク活性化のためのディスカッション・アイデア

2/11 @遊工房アートスペース

- ・マイクロレジデンスほんとうの話：円卓・寺子屋方式のディスカッション
- 各マイクロレジデンス 課題共有
- ゲストトーク：岩間航氏（タストコ）
- マイクロレジデンスネットワーク顕在化、運営促進検討




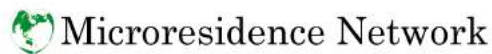
2017年活動一覽 - overview

	Space	Jan.	Feb.	March	April	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	
Youkobo	AIR1	Residence 1 Franck Lesbros		Loh Xiang Yun	Espen Iden	Richard Maloy <small>*Asia Newzealand</small>		Richard Maloy <small>*Asia Newzealand</small>	Julie Marie <small>*Luxembourg</small>	Maijja Luutonen <small>*FASE</small>			Ari Saarto -01.2018	
	AIR2	Residence 2		Nicola Moss		Jean-Baptiste Lagadec & Abbi Jones <small>*London/Tokyo Y-AIR Exchange Program</small>	Sarah Maria Scicluna <small>*Agenzia Zghazagh</small>	Jean-Baptiste Lagadec & Abbi Jones <small>*London/Tokyo Y-AIR Exchange Program</small>	André Dubois	Vojtěch Domlátil <small>*OPEN AIR</small>			Anna Samsøe, Andreas Stoubye Johansen -01.2018	
		Studio 2	Group exhibition											
	AIR3	Residence 3			Saku Heinänen <small>*FWU</small>	Maria Matimikko <small>*FWU</small>	Catharina Gripenberg <small>*FWU</small>	Madelaine Dickie <small>*Asialink</small>	Tuija Teiska <small>*Y-AIR, FUP</small>	Kaisu Koivistu				David Franklin <small>*YRRP</small> -01.2018
		Studio 3	Naomi Reis		Group exhibition (GAP)	Talk Events	Dan Isomura & Mayumi Arai <small>*London/Tokyo Y-AIR Exchange Program</small>		Piano Live					

	Space	Jan.	Feb.	March	April	May	June	July	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.
Exchange Program	London, UK					Mayumi Arai & Dan Isomura							
	Pilsen, Czech					Nozomi Watanabe <small>*OPEN AIR</small>	Hiroko Matsushita <small>*AUCamp</small>						
	Finland					Kazuo Yoshida <small>*PSF, Espoo</small>		Erika Masuya <small>*Lapland</small>					
Conference Meeting, Research	Oversea		London							Luxembourg			
	Local		Joshibi								Finnish Institute in Japan	Czech Center Tokyo	Fujino

Self-funded
 Institutional Recommendation Program
 Y-AIR

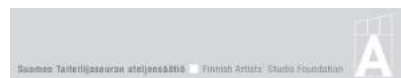
 平成29年 文化庁 アーティスト・イン・レジデンス活動支援事業



AIR_J



: Double agents



Youkobo Art Space Annual Report 2017

Edit : Youkobo Art Space
Zempukuji 3-2-10, Suginami-ku, Tokyo,
167-0041 Japan
TEL/FAX: 03-3399-7549
E-mail: info@youkobo.co.jp
URL: <http://www.youkobo.co.jp>
Published in Japan January 2018